

は谷に面して、こともあろうに大きな岩の上に根をおろしていた。岩には、瘤のように根が出現している。幹は二股、三股、よく見ると五つに別かれ、それぞれが太くたくましい。



山桜の巨木に出会う

薪づくりで薪づくりを

昨年12月から5回にわたって、神郡の細草川周辺で「筑波山麓・霞ヶ浦水源の薪づくり」をつくれば環境フォーラムの主催で行いました。かつて薪や炭の材を供給した筑波山麓の森は、今では手入れも滞り、篠竹が生い茂ってイノシシの格好のねぐらとなっています。

薪づくりは、まずこの篠竹を刈り払うことから始まります。森では毎年の落ち葉がふかふかの腐葉土となり水をためる働きをするのですが、篠竹が密生すると根がマット状に広がって雨水の浸透を妨げます。実際、昔に比べ沢の水量が少なくと地元の方々は話します。そこで今回はまずたくさんボランテアで

見上げると、高く高く空に向かって枝を広げている。桜には何者かが宿るといいますが、まさに何か見えざる者の気配が感じられた。

今回の探検は、道なき道を登るハードなものであった。杉林や枯れ木の多い松林を抜けること1時間あまり、多くの山桜に出会えた。平地の桜とは趣が異なり、野性味が感じられる木々であった。その中でも前述の木が一番印象に残った。花の盛りをぜひ見てみたいものである。

遮那ひろみ（神郡地区）

「薪プロジェクト」スタート！

刈り払い作業をしました。

薪炭林の雑木林は10〜15年周期で伐採され、切り株から若い枝が再生することで森が若返り、その豊かな



チェーンソーを使った伐採

自然が続きます。ただ木は大きくなりすぎると切っても再生しないので、今、木を切ることは雑木林の自然再生にとって必要です。そこで、篠竹を刈り払った後、大きい木を伐採しました。直径60cm以上もあるクヌギやコナラは、専門家でないといけません。今回はいばらき森林クラブの方々の応援により切り倒すこと

ができました。

切った木は薪にしました。木を切り使うことで森が若返る、使うために継続的に手入れする、そういう循環を再び作ることで、雑木林など人のかかわりによって自然が豊かになってきた里山では大事です。そこで、使い手である薪ストーブ愛好家の方々に呼びかけたところ、ボランテアに参加する人も増えました。

山で切り倒した木は丸太に切って運び出し、斧で割って薪にします。慣れるとスパッと割れて爽快です。

運び出すのにも薪に割るのにも、割った薪を乾燥用の棚に積むのにも、人が多いほど楽しく効率的に作業できます。毎回の活動には50名以上の方が集いました。気持ちよい汗を流して、おいしいお昼を食べながらわいわい交流するのも楽しみのひとつ、筑波

山麓の森や薪が結んだ縁が、山も人も元気に



薪割りは割れた瞬間が爽快

してくれらる感じました。みなさんも、薪づくりや薪づくりに参加してみませんか。田中ひとみ（つくば環境フォーラム）

すそみ・わたしのお氣にへり②

燧ヶ池の榎

臼井と沼田の境にある燧ヶ池のほとりに、大きな榎がある。池の周りに植えられた桜がほとんど枯れてしまったにも関わらず、自然に生えた榎は、毎年4〜5月に小さな淡黄色の花を見事につける。

古く万葉集では、巻十六に
我が門の榎の実もり喫む百千鳥

千鳥は来れど君ぞ来ませぬ

とある。昔から小鳥が好んで果実を食べる木として、知られていたらしい。広い枝張りど広がった樹冠に趣があり、一般的に屋敷木として多く植えられている。

この榎は、遠くから見ると、シエル・シルヴァスタイン作の絵本『大きな木』そのものだ。大きく長い腕を広げ、全てを無条件に包み込むような、深い優しさに満ちあふれている。

私が、この榎の存在に気がついたのは、一枚の写真からだ。私が一人で結婚式へ出掛けたとき、主人と子どもたちがサイクリングに行き、榎をバックに撮った写真だ。私はそれを見て、不思議な安らぎのような感情を抱いた。

それからしばらくして、NHKの教育テレビ番組で、小学校の道徳用のドラマ「さわやか三組」の撮影に、



子どもたちを見守る榎の老木

この榎が登場した。主人公の女の子は、学芸会で主役をやりたいかったのだが、「木の精」の役になり不満だった。しかし、榎を描く「不思議なおじさん」との出会いで、心を開き、「木の精」をやる決心をするという物語。ここで、榎は重要な役割を果たし、何回も登場していた。「木には人の思い、祈りが込められている。木そのものだけでなく、それらも大切にしたい」というメッセージが伝わってくるドラマだった。

人にはそれぞれ価値観があり、一様ではない。しかし、人々は昔から、神のごとく自然を愛し、敬い、祈ってきた。今を生きる私たちは、それらをふまえ、これからも木と付き合い続けていかなければならない。榎の、この力強さを守っていくためにも…。

菊地 都（立野地区）

「田井の水溜め」その後

前号で「田井の水溜め」の情報を募集したところ、さっそくお知らせいただきました。前号で誤った点もありましたので、それを修正し、整理し、掲載いたします。

●水溜めのあった場所は、「番影山」でなく、「田井小」の上の山べり。その場所へは、いまヤブになって行けない。

●水溜めは、水が湧いていて、それを凍らせた。水を作っていた方は、現在80歳位で、数年前までその場所にセリなどを摘みに行っていた。

●水を作るのを止めたのは、製氷技術が発達したことや、家庭に冷蔵庫が普及した時代背景に加え、冬場も温かくなり氷が張りづらくなったこと。さらにゴルフ場ができて農薬などの心配から、仕方なく止めた。

●氷は、氷倉（氷室）におがくずを入れて、その中で保存した。馬の背に付けて石岡の祭りに運んで売ったりした。氷倉は3年前まではあり、写真を撮りにくる人もいた。

「再び氷が作れば」と考えたのが始まりでしたが、今後、山の手入れや養蚕など、少し前の山里の暮らしを掘り起こしていきたいと思えます。貴重な情報をありがとうございます。野末たく二（編集部）

インフォメーション

●紫の会第6回草木染展
筑波山麓の樹木や草で染色した布を使った着物・洋服・暖簾・小物などの作品展。紫の会は、毎月1回、筑波ふれあいの里で染色教室を開催しています。今年、白梅や桜、子年にちなんだネズミモチからの染色を展示します。
5月3日（土）〜5日（月） 10時〜16時／田井ミュージアム／入場無料
[問] 自然生クラブ
029-866-2192

●田楽の集い 田植え
筑波山の麓で、アイガモ農法による無農薬の米作り。黒米や赤米を手植えします。あぜで田楽舞いもあります。
5月18日（日） 10時〜15時 / 雨天中止
山の神の谷津田（つくば市神郡2336）
参加費 大人1000円・小人500円（昼食あり）／対象 幼児〜大人、障害のある方、どなたでも。／持ち物 着替え
[問] 自然生クラブ
029-866-2192

●すそみの田んぼの米づくり
沢水をひいて無農薬でおこなう「生きものと共存する米づくり」です。美しい筑波山を眺めながら一緒に！
5月17日（土） 棚田の田植え
6月14日（土） 田んぼの草取りと生きもの観察会／参加費900円（昼食つき）
ご家族どうぞ！
[問・申込] つくば環境フォーラム
029-863-5151

あなただけの
快適な住まいをお手伝い

なんでもご相談下さい

建築設計、監理、許可

柳原建築設計事務所

〒300-4212 つくば市神郡 2550
TEL029-866-1530 FAX029-866-1531

居酒屋

長久

お気軽にどうぞ！！

居酒屋 長久

(代) 三田部長久

つくば市神郡 365-2 TEL029-867-0728